

第1学年「生き方」指導案

1 単元名

障がいのある人と自分

2 指導の立場

周囲の人との関わりにおいて、思いやりの気持ちをもって接することが大切であると頭では理解しているが、いつ何時も、誰に対してもそのように行動することは難しい。自分勝手な判断や思い込みで仲間を傷付けてしまう愚かさや、周りの雰囲気流されてしまう心の弱さ、弱い立場の人を無意識のうちに見下してしまう心の醜さは、誰しもがもっているものだからである。それゆえに、相手への配慮に欠ける言動が日常生活の中に表れる。人権学習を通して、そのような自分自身の愚かさ、弱さ、醜さを直視しながら、自分は周囲の人とどのように接したいのか理想を追求し続けることで、相手を尊重し、相手の気持ちを理解して行動することを希求する心や日常生活から差別につながる言動に敏感になれる心を育てていきたい。

本単元では、障がいのある人の生き方や考え方に触れる。そして、障がいのある人に対する自分の見方・考え方を見つめる場を設ける。「障がいがあるからできない。」「障がいのある人は障がいのない人より劣っている。」「障がいのある人はかわいそう。」「関わらないようにしたい。」といった見方・考え方があることに気付かせることで、自分の中の差別心に向き合い、「変わりたい。」という思いにさせていきたい。

また、障がいのある人の実際の気持ちを知ったり、体験学習を行ったりする機会を設ける中で、バリアフリーの必要性を実感させ、障がいのある人が安心して生活できる社会にしていけるために配慮していくことについて具体的に考えさせ、行動につなげていきたい。

3 生徒の実態

4 研究との関わり

【研究主題】

葛藤と語らい 自他を大切にする生徒の育成

【研究内容②：授業づくり】

・「葛藤」を生み出し、「語らい」により自他を受け止め合い、よりよい自分を模索できる授業

I. 葛藤を生み出す指導について

主人公の内面にある差別心について着目させ、理想の姿と対比させる。その上で、自分の心を見つめさせ、自分の中にある現実（主人公が持つ心の弱さが自分にもあること）に気付かせることにより、「こんな自分のままでよいのか。」「自分が理想とする姿は何か。」という葛藤を生み出していきたい。

II. 語らいを生み出す指導について

葛藤の中で生み出された自分の心の弱さについて、人前で話すことはとても勇気がいることであり、とりわけ最初に意見を伝えることについて、高い壁がある。そこで、自分の思いを文章にさせることで、気持ちを整理させる。また、机間指導を通して、自分の心と向き合おうとしている生徒の意見を把握し、意図的指名につなげる。その上で、「自分はどう思うか。」「自分にも似たような思いはないか。」と全体に問うことにより、仲間の考えと比較して考えたり、自分の気持ちを素直に伝えたりする場を設けたい。

5 人権教育として育てたい三つの力

認識力	自己啓発力	行動力
◎障がいのある人々への差別や偏見を見抜く力 ◎人権課題について正しく理解する力	◎障がいのある人もない人も誰もが生き生きとした人生を送ることのできる共生社会を実現するための当事者であると自覚し、先入観や偏見を改めようとする力	◎障がいのある人々と共に、互いに尊重し合い、対等に関わる共生社会の実現に向けて、主体的に取り組もうとする力

6 総合的な学習の時間としての単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
障がいのある人を取り巻く様々なバリアや障がいのある人たちが抱える生きにくさなどが分かり、合理的配慮について理解することができる。	仲間との語らいや福祉体験を通して、障がいのある人に対して偏った見方をしている自分に気づき、共生社会を実現するために自分たちがどのように行動するとよいかを多面的・多角的に考察することができる。	自分の心の弱さを乗り越えながら、障がいの有無に関係なく、互いの人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に向けて、主体的に取り組もうとしている。

7 総合的な学習の時間としての単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①障がいのある人に関わる差別の現状を理解している。 ②障がいのある人への差別や偏見の現状について、タブレット端末や資料を用いながら、情報を収集している。 ③障がいのある人と自分との関わりについて理解し、自らの行為が共生社会の実現に深く関わっていることに気付いている。	①障がいのある人への差別の現状や困り感から課題を設定し、課題解決への見通しをもっている。 ②障がいのある人の人権課題の正しい理解に必要な情報を、目的に応じて適切に収集している。 ③差別や偏見を生み出しているのは人間の心の弱さであることを、現実と理想の対比から考察している。 ④心の弱さを乗り越えようとしている自分を踏まえて、相手意識や目的意識に応じて、分かりやすく工夫し、表現している。	①異なる仲間の意見を受け入れながら、自分自身の心の弱さを見つめ直している。 ②過去の経験や自分とは異なる仲間の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③自分の生き方を見つめ直し、障がいのある人の人権課題の解決に進んで取り組もうとしている。

8 単元指導計画 (全 13 時間)

時	ねらい	学習活動	・指導のポイント ○準備物 ★葛藤を生み出す手立て ◎語らいを生み出す手立て	知 技	思 判 表	主 体
1	障がいがある人となない人の違いについて考えることを通して、障がいがある」「ない」によって、人を違った見方をしている自分に気づき、障がいのある人について学ぶことの意義や単元の学習の見通しをもつことができる。 (認識力)	①成田選手の金メダル獲得時の映像(パラリンピック)を見て、感想を交流する。【全体】 ②成田選手の障がいの紹介の映像を見て、感想を交流する。【全体】 <u>課題: 障がいがある人」と「ない人」への見方について考えよう</u> ③障がいがあることを知る前後で、感想がどのように変わったのかをワークシートに記入する。【個人】 ④グループで意見交流をしてホワイトボードにまとめる。【グループ】 ⑤全体交流を通して、偏見や差別につながる意識について考える。【全体】 ⑥アンケートの記入をする。【個人】 ⑦本時の感想を書く。【個人】	○映像資料①「成田選手のパラリンピック金メダル動画(1:59)」 ○映像資料②「成田選手の障がいの紹介動画(2:00)」 ・動画の視聴後、感想の変化「障がいがあるのにすごい」という意見を取り上げることにより、障がいのある人に対して、知らず知らずのうちに偏見や差別心をもってしまっていることに気付かせる。 ・事前アンケートとワークシートを回収後、障がいのある人に対する生徒の意識を把握し、生徒の心の変容を捉えていく。 ○ワークシート、ホワイトボード		①	
2	障がいは様々な種類があることが分かり、それによって生じる生活する上での不便さが存在することに気づき、障がいのある人に対する配慮が必要であることが分かる。 (認識力)	①映像資料をもとに、障がいの種類や現状をワークシートに記入しながら確認する。【個人】⇒【全体】 <u>課題: 障がいのある人は、生活する上で、不便に感じることはあるだろうか</u> ②障がいのある人が感じる不便さにはどのようなものがあるのかをワークシートに記入し交流する。【個人】⇒【グループ】 ③映像資料の3つの事例(車いす・盲導犬・聴覚障がい)から、障がいのある人が感じる不便さを考え、ワークシートに記入する。【個人】 ④映像資料を振り返り、障がいのある人の生きにくさについて交流する。【グループ】⇒【全体】 ⑤本時の感想を書く。【個人】	○映像資料③「障害のある人と人権～誰もが住みよい社会をつくるために～動画(2:59)」 ・①では、障がいの種類や障がいのある人の数を知ること、身近に存在していることに気付かせる。 ・②では、どのようなことが障がいのある人の生きにくさにつながるのかを想像させる。 ・④では、②で考えていたこと以外に、気が付かないところで不自由さを感じていることや、社会全体として配慮が必要であることに気付かせる。 ○ワークシート、ホワイトボード	①	②	
3	障がいのある人の思いを知ることを通して、自分の思いとのズレがあることに気づき、相手の思いを理解して行動することが大切だと分かる。(自己啓発力)	①前時の授業を振り返り、「障がいのある人の生きにくさ」をもとに、障がいのある人の思いについて考える足場をつくる。【全体】 <u>課題: 障がいのある人は、どんな思いで生活しているのかを考えよう</u> ②映像資料を視聴し、障がいのある人と周りの人の思いにズレがあることに気付かせる。【全体】 ③障がいのある人が周りの人に分かってほしい思いについて考え、全体で交流する。【グループ】⇒【全体】 ④資料をもとに、障がいのある人が思っていることについて気が付いたことを交流する。【全体】 ⑤本時の感想を書く。【個人】 ⑥次時に考える映像資料を視聴する。【全体】	○映像資料④人権啓発動画「『誰か』のことじゃない」障害のある人編(2:32)」 ・②では、車いすの人が他の社員と同じように会議に参加したいと思う気持ちに気付かせ、障がいのある人の思いについて考えることが重要であることに気付かせる。 ○資料「障がいのある当事者からのメッセージ」(内閣府 2023) ○ワークシート、ホワイトボード ・③で考えたことと④で考えたことにズレがあることに気付かせる。 ○映像資料⑤「風の匂い」(~9:40)	③	③	

4	歩に関わる正人の気持ちを考える活動を通して、障がいのある人に対する偏見や差別心が自分の中にあることに気付くことができ、自分の中にある差別心を変えていきたいと考えることができる。 (自己啓発力)	①前時を振り返り、本時の課題につなげる。【全体】 ②映像資料「風の匂い」の登場人物や問題の背景を確認する。【全体】 ③正人の複雑な表情を比較する。【全体】 課題：正人は歩に対してどんな思いをもっていたのだろう ④正人が歩に対して、どのような気持ちをもって接していたかについて、正人の表情をもとに考える。【全体】 ⑤正人の歩に対する態度についての感想を交流する。【全体】 ⑥正人と自分の心を比べながら交流する。【全体】 ⑦本時の感想を書く。【個人】	・④では、「こんな正人について、あなたは思うだろう。」と問うことで、正人の気持ちに共感させる一方、表情や態度に出すことはよくないという意識を引き出す。 ★葛藤を生み出す指導 「自分が正人の立場ならどうだろう。」と問うことで、自分の中にも正人と同じく障がいのある人に対する偏見や差別といった心の弱さがあるかもしれないことに気付かせる。 ◎語らいを生み出す指導 葛藤を生み出す指導で生じた「理想」と「現実」のズレについて考えたことを交流させることで、さらに自己を深く見つめ直すことにつなげる。 ○ワークシート、ホワイトボード	③	①
5	障がいのある人がどんなことに困っているのかを考えることを通して、障がいのある人が安心して生活できる社会にしていけるために、自分にできることを考えることができる。 (自己啓発力)	①歩を取り巻く状況を確認し、本時の課題につなげる。【全体】 課題：障がいのある人が安心して私たちと共に生きる社会にしていけるために、自分には何ができるのだろう ②歩が安心して働くことができるようにするために、周りの人がどんなことをするとよかったのかを考え、ワークシートに記入する。【個人】 ③記入した内容を交流する。【グループ】⇒【全体】 ④映像資料を視聴する。【全体】 ⑤正人や周りの人が歩にした配慮について交流する。【全体】 ⑥本時の感想を書く。【個人】	・前時の学習を振り返り、課題につなげる。 ・問題が起こった時の職場の人たちの気持ちや対応の仕方に焦点を当て、周囲の一人としての配慮について考えさせる。 ・障がいのある人が仕事にやりがいをもっていることや社会の一員として仕事をしていることを理解させ、歩の特性を理解することや配慮することが大切であることに気付かせる。 ・「～したほうがよい」という表面的な考えに流れないように、自分がその場にいたらどうすることができるか、自分のこととして考えさせる。 ○映像資料④「風の匂い」(17:30～33:00) ○ワークシート、ホワイトボード		③
6 7	体験学習(車いす体験、アイマスクを着用した白杖体験)福祉体験を通して、障がいのある人の困り感を実感するとともに、支援の在り方について考えることができる。(行動力)			②	
8	障がいのある人が暮らしやすい社会にしていけるために、行われている支援について調べ、今後の社会の在り方について考えることができる。 (自己啓発力)	課題：障がいのある人が住みよい社会にするために、どのような支援ができるだろうか ①資料をもとに、どんな支援ができるかを考える。【グループ】 ②社会の中で実際に行われている物理的支援について調べる。【個人】 ③調べたことを交流する。【全体】 ④自分にできる支援を考える。【個人】	・障がいのある人にできそうな支援について考えさせる。 ・実際に行われている社会的な配慮(バリアフリー)について調べさせ、物理的支援の在り方について考えさせる。 ○資料「ぐう・ちよき・ばあ」(岐阜市社会福祉協議会) ○ワークシート、タブレット端末	③	②
9	誰もが互いに尊重し合い、心のバリアを克服しようとする思いや、よりよい社会を築いていこうとする考えをもつことができる。	課題：学習をふり振り返り、考えたことを作文にまとめよう ①これまでの学習を振り返り、考えたことを作文にまとめる。【個人】	・分かったことだけでなく、自分が行動につなげていきたいことを書くよう指導する。 ○作文用紙	③	③
10 ～ 12	自分の思いを整理し、相手を意識して、分かりやすく発表することができる。(行動力)	課題：これまでの学習や福祉体験を振り返り、自分の思いや考えを仲間に伝える準備をしよう ①プレゼン資料をつくる。【個人】 ②プレゼンの練習をする。【個人】	・学んだ事実だけでなく、深い学びに至ったきっかけや自分の心の変容などをもとに作成できるようにする。 ○タブレット端末	②	③
13		課題：自分の思いや考えを伝えよう ①発表会を行う。【グループ】 ②抽出生徒の発表を聞く。【全体】 ③学習のまとめをする。【全体】 ④感想を記入し、仲間に伝える。【グループ】	・発表後に、口頭で感想を伝えさせる。また、感想用紙を授業後に切り取り、渡すことができるようにする。 ・心の変容があった生徒を事前に抽出し、その思いを全体で共有する。 ○感想用紙、タブレット端末	④	③

9 本時について (4/13)

【ねらい】 歩に関わる正人の気持ちを考える活動を通して、障がいのある人に対する偏見や差別心が自分の中にあることに気づき、自分の中にある差別心を変えていきたいと自分を見つめ直すことができる。

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	留意点 ★葛藤を生み出す指導 ◎語らいを生み出す指導
導入	①前時の振り返りをする。 【全体】 ②登場人物や問題の背景を確認する。 【全体】 □森野 歩 (知的障がい) ・しゃべり方が特徴的 ・こだわりが強い ・自分の担当の仕事に一生懸命に取り組める ・言われたことをそのまま受け止めて行動する ・急な変更に対する対応が苦手 □渡辺 正人 (売り場主任) ・歩の仕事担当の主任 ・歩とは幼なじみ ③正人の複雑な表情について、動画(3:00~9:40)を見直し、正人が歩と会話している表情と、その他の登場人物と会話している表情をペープサートを使用して見比べる。 【全体】	①前時を振り返り、障がいのある人の気持ちについて確認する。 ②歩に知的障がいがあることから、その特性や生きにくさについて押さえる。また、正人が歩と幼馴染みであったことを補足説明する。 ③動画を視聴する際に、焦点を当てる場面について補足説明する。そして、ペープサートで表情を比較することで、歩を変な目で見てしまう正人に気付かせる。 ・正人が歩を紹介された時に驚く表情 ・歩の行動を見た後、帰宅する前の表情
展開	正人は歩に対してどんな思いをもっていたのだろう ④正人の歩に対する気持ちについて考える。 【全体】 「なぜ正人は歩に対して、こんな表情をしたのだろうか。」 ・歩と再会することになって驚いた。(驚き) ・歩はきっと覚えていないだろう。(安心) ・面倒なことになりそうだ。(不安) ・知り合いだと思われて変な目で見られたくない(世間体) ・できるだけ関わりたい。(偏見) ⑤正人の歩に対する態度についての感想を交流する。 【全体】 「こんな正人についてどう思うか。」 ・正人の態度や行動はダメなことが多すぎる。 ・幼馴染なのに知らんぷりするのをおかしい。 ・面倒くさそうにするのはよくない。 ・幼馴染みならもっと助けてあげないと。 ・もっと助けて歩を支えるべきだ。 ・歩のことを避けてはいけない。 ・人から見られてどうとかで歩を避けるのはおかしい。 ⑥正人と自分の心を比べながら交流する。 【個人】⇒【全体】 「自分が正人の立場ならどうかな？」 ・だめだと分かっている顔に出してしまうかもしれない。 ・歩は周囲の空気を読めないから、正人が変な顔をする気持ちも分かるような気がする。(偏見) ・正人のことをダメだと思っていたけれど、周りの目を気にするあまり同じようなことをしてしまう自分がいる。(世間体) ・正人のことをひどいと思っていたのに、もし自分がそういう立場だったら、自分も正人と同じようにひどい態度をとってしまうかもしれない ・自分の中に偏見や世間体を気にする気持ちがあることに気付いた。この偏見や世間体を気にする気持ちが差別につながるので、こういった気持ちをなくしていきたい。	④正人の複雑そうな表情の裏側にある歩に対する気持ちを考えることを通して、障がいのある歩に対する偏見や差別心に気付かせる。 「正人は歩と幼馴染みであることを歩や周囲の人になぜ伝えようとしなかったのだろうか。」 「正人は歩のことをどう思っているのだろうか。」 ⑤正人の内面にある歩に対する態度に不快な気持ちを明確にすることで理想の姿を想起させる。また、理想の提示物を位置付けることにより、⑥で考える現実とのズレを明確にする。 ⑥提示物を活用しながら、「自分だったらどうするのか」という体験を引き出す発問をし、より現実的かつ自分事として考えられるようにする(身の回りにおける差別事象に触れる)。その際に、現実の提示物を位置付け、本時における現実の姿を確認する。 「障がいの有無に関係なく、予期せぬ行動に対して表情や態度に出してしまうことはない？」 「正人をよくないと言っていたけれど、いざ自分の立場になるとよくない行動をとってしまうのはなぜだろうか。」 「これってこのままでいいのだろうか。」 ★葛藤を生み出す指導 自分も正人と同じ態度をとってしまうかもしれないという「現実」に気付かせ、正人に感じた不快な気持ちが自分の中にもあることに気付かせることで、差別につながる意識を自覚させる。 ◎語らいを生み出す指導 葛藤を生み出す指導で生じた「理想」と「現実」のズレについて考えたことを交流し、さらに自己を深く見つめ直すことにつなげる。
終末	⑦本時の感想を書く。 【個人】 歩に対して冷たい行動をとってしまう正人はひどいと思っていたけれど、自分の中にも正人と同じ気持ちがあるかもしれないと思った。相手のことを考えて行動できる自分になることで、表情に出してしまうことや目配せをしてしまうといった、障がいのある人や周りの人とは違うことへの差別する気持ちをなくしていきたい。 ⑧本時のまとめをする。 【全体】	⑦「今日の授業で気付いたこと、考え方が変わったこと」を本時の感想に書かせる。 評価規準【思考・判断・表現】 障がいのある人に対する偏見や差別心が自分の中にあることに気づき、自分の中にある差別心を変えていきたいと自分を見つめ直している。 ⑧自分を見つめ、変わりたいと思う気持ちが表れている生徒の振り返りを紹介する。

第2学年「生き方」指導案

1 単元名

国際社会と自分

2 指導の立場

今年1月から7月までの訪日外客数は約 2106 万人に達した（日本政府観光局）。また、在留外国人の数は令和5年度末時点で 341 万 1000 人となり、過去最高を更新した（出入国在留管理庁）。岐阜県の公立中学校に所属する外国人生徒数は令和5年度に 1116 人となり、同じく増加傾向にある。本校においても同様であり、それぞれの学年で外国に所縁をもつ生徒が多数いる状況となっている。

こうして日本国内に外国人が増えている一方で、差別や偏見は根強く残っている。外国人であることを理由としたサービスの拒否や労働環境の悪さ、ヘイトスピーチと呼ばれる誹謗中傷が社会問題となっている。本校の校区にも多様な国の人が暮らしており、日頃から差別や偏見を感じながら生活している生徒もいると考えられる。一方で、学校生活でしか関わりのない中学生にとっては、社会的な差別や偏見は他人事であり、実感を伴わない生徒もいるだろう。

本単元では、自分たちとは違う国の人だということの無意識の言動が外国人を傷つけてしまう可能性があることを学習する。そして、よく知らない人や文化を「〇〇人」という国籍の枠に当てはめて、決めつけたり偏ったりした見方をしている心の弱さに気付く。さらに、こうした心の弱さを乗り越えるために、何を意識し、どう行動するとよいかを見つめ直す。これらの指導を通して、外国につながる人々と共に、互いに尊重し合い、対等に関わる多文化共生社会を創り出そうとする態度を育てていく。

3 生徒の実態

4 研究との関わり

【研究主題】

葛藤と語らい 自他を大切にする生徒の育成

【研究内容②：授業づくり】

・「葛藤」を生み出し、「語らい」により自他を受け止め合い、よりよい自分を模索できる授業

I. 葛藤を生み出す指導について

生徒の中に葛藤を生み出すために、「あるべき自分の姿（理想）」と、「自分の中にあるかもしれない決めつけや偏見（心の弱さ）」を明確に意識させたい。そのために、本時では、まず理想を顕在化させる。垣内さんが朴さんに冷たい態度をとる理由を深く考えさせる前に、差別している垣内さんをどう思うか問うことで、客観的に評価させる。これにより、「差別はいけない。」「一人一人として接するべき。」という理想を顕在化させる。その後、垣内さんが朝鮮人に対して、個人的な事情による強い嫌悪感を抱いていることを確認し、その上で、「自分が垣内さんだったら、朴さんに対してどう接するか。」を考えさせる。そうすることで、強い感情により朴さん本人に目を向けることのできない垣内さんの気持ちを共感的に受け止めさせ、自分の心の中にある「朴さんを朝鮮人の一人として見てしまうかもしれない心の弱さ」に気付かせ、葛藤へとつなげたい。

II. 語らいを生み出す指導について

葛藤を可視化し、仲間と共有しながら交流する場を位置付けることで、語らいを生み出したい。そのために、ロイロノートを活用して立場を明確にさせ、葛藤を言語化する手立てとしたい。また、登場人物である垣内さんの態度について、そこまであからさまな対応はしないと答える生徒が多いことが予想される。そのため、「態度は同じだとしても、気持ちの上ではどうだろう。」「朴さんは良い人だから、というけれど、違ったらどうだろう。」などと問い返し、あるかもしれない心の弱さを十分に見つめさせたい。

5 人権教育として育てたい三つの力

認識力	自己啓発力	行動力
◎社会の中の外国につながる人々への差別や偏見を見抜く力 ◎人権課題について正しく理解する力	◎自分自身が多文化共生社会を実現するための当事者であると自覚し、先入観や偏見を改めようとする力	◎外国につながる人々と共に、互いに尊重し合い、対等に関わる多文化共生社会の実現に向けて、主体的に取り組もうとする力

6 総合的な学習の時間としての単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国人に対する差別や偏見があることに気づき、外国につながる人々の伝統や文化、考え方の違いを認め、互いに尊重し合い、主体的に対等に関わっていくことが多文化共生社会の実現につながることを理解することができる。	調べ学習や仲間との語らいを通して、自分の中にも外国人を差別する弱い心があることに気づき、多文化共生社会を実現するために自分たちがどのように行動するとよいかを多面的・多角的に考察することができる。	自分の心の弱さを乗り越えながら、外国につながる人々と互いの伝統や文化、考え方を尊重し合い、対等に関わる多文化共生社会の実現に向けて、主体的に取り組もうとしている。

7 総合的な学習の時間としての単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本における外国人に対する人権課題について、差別や偏見があることを理解している。 ②日本における外国人への差別や偏見の現状について、タブレット端末を用いながら、目的に応じて情報を適切に収集している。 ③外国人に対する人権課題と自分との関わりについて考え続けてきたことによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。	①外国人に対する人権課題と向き合いながら、課題解決への見通しをもっている。 ②外国人に対する人権課題の正しい理解に必要な情報を、立場に応じて適切に収集している。 ③差別や偏見を生み出しているのは人間の心の弱さや社会構造であることを、現実と理想の対比から考察している。 ④心の弱さを乗り越えようとしている自分を踏まえて、相手意識や目的意識に応じて、分かりやすく表現している。	①異なる仲間の意見を受け入れながら、自分自身の心の弱さを見つめ直している。 ②過去の経験や自分とは異なる仲間の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③自分の生き方を見つめ直し、外国人に対する人権課題の解決に進んで取り組もうとしている。

8 単元指導計画（全12時間）

時	ねらい	学習活動	・指導のポイント ○準備物 ★葛藤を生み出す手立て ◎語らいを生み出す手立て	知 技	思 判 表	主 体
1	日本に住む外国人の実態から、多文化共生社会の実現には外国人の人権について学ぶ必要があることを知り、単元の学習の見通しをもつことができる。 (認識力)	①来日外国人の数や現在の在日外国人の数を提示する。【全体】 課題：日本に住む外国人について考えよう ②映像資料【外国人と人権～違いを認め、共に生きる～(33分)】を視聴し、外国人に対する差別の実態を知る。【全体】 ③外国人に対する差別の実態について交流する。【全体】 ④本時の感想を書く。【個人】	・2021年7月、東京オリンピックの影響で訪日外国人旅行者数が5万1100人になったことや、令和4年度現在およそ296万2000人の人が在日外国人であることなどを提示し、多文化共生社会が進んでいることを押さえる。 ○映像資料「外国人と人権～違いを認め、共に生きる～」		①	
2	日本における外国人差別の現状を調べることを通して、日本という国で暮らすことに辛さや苦しみを感じている人がいることが分かる。 (認識力)	①前時の学習を振り返り、他にどのような問題があるかを考える。【全体】 課題：日本における外国人差別の問題を知ろう ②自分が気になるテーマを一つ選び、どのような問題が起きているかを調べる。【個人】 ③調べてみて疑問に思ったこと、考えたことをワークシートに書く。【個人】	・「職業選択」、「交際・結婚」、「サービス拒否」、「ヘイトスピーチ」、「地域とのつながり」、「留学生」、「その他」のテーマの中から、興味や関心のあるものを選ばせる。 ・具体的な事例を調べさせることで、様々な差別があることに気付かせる。 ○ワークシート、タブレット端末	②	②	
3		課題：日本における外国人差別の問題をまとめよう ①「問題となる事象」、「問題の背景」、「行われている対策」を整理し、必要な情報を集める。【個人】 ②集めた情報を改めて整理し、プレゼンにまとめる。【個人】	・ワークシートを使って情報を整理させることで、差別の問題やその対応など、日本の社会の現状を捉えさせる。 ○ワークシート、タブレット端末	②	②	
4	調べたことを仲間と伝え合う活動を通して、様々な立場の人が多様な場面で差別されて苦しんでいることが分かる。 (認識力)	課題：日本における外国人差別の問題について、調べたことを交流しよう ①ロイロノートを使って、調べたテーマについて発表する。【個人】 ②発表を聞いて疑問に思ったことを聞く。【グループ】 ③交流を終えて、外国人差別について改めて感じたことをワークシートに書く。【個人】	・各グループの発表を聞くことで、実際にどのような差別があるのか、具体的な事例を理解させる。 ・最後に感想を記入させ、日本にある外国人差別に対する否定的な気持ちを改めて表出させる。 ○タブレット端末、ロイロノートワークシート			②
5	在日韓国・朝鮮人に対する差別問題の動画の視聴を通して、長く続く外国人への差別問題が今も残っていることが分かる。 (認識力)	①様々な差別問題の中で、在日韓国・朝鮮人差別という問題が長年の課題としてあることを確かめる。【全体】 課題：在日韓国・朝鮮人に対する差別を知ろう ②映像資料「#アベプラ『在日差別』(41分)」を視聴し、在日朝鮮人の差別問題について知る。【全体】 ③差別の原因となる歴史や、問題そのものについて分かったことをまとめる。【個人】	・在日韓国・朝鮮人に対する差別の歴史や概要を取り扱うことで、次時以降の学習を深めるために必要な知識を身に付けさせる。 ・個人で分かったことを書きまとめさせることで、知識の定着を図る。 ○映像資料「#アベプラ『在日差別』」、ワークシート	①		

6	映像資料を通して、外国人がどのような差別や偏見を受け、苦しんでいるのが分かる。 (認識力)	①前時の感想をもとに、外国人が受けている差別の実態を確認する 【全体】 <u>課題：日本に住む外国人が抱える悩みや苦しみについて考えよう</u> ②映像資料「ホームタウン～朴英美(パク・ヨンミ)のまち～」を視聴する。 【全体】 ③映像資料の感想を朴さんの気持ちに着目して書く。 【個人】	・映像資料は随時韓国語などが話される場面があるため、字幕ありで視聴させる。また、主人公(朴さん)の気持ちに注目して視聴するように指示する。 ・43分40秒までを視聴させる。 ○前時の感想、映像資料「ホームタウン～朴英美(パク・ヨンミ)のまち～」、ワークシート	①		
7	朴さんの気持ちを考えることを通して、ありのままの自分で生きられない被害者の苦しみに気付き、差別は良くないという考えを深めることができる。 (自己啓発力)	<u>課題：朴さんの気持ちについて考えよう</u> ①前時の感想をもとに、映像資料を振り返る。 【全体】 ②朴さんの気持ちを場面ごとに考え、ワークシートに記入する。 【個人】 ③書いた内容を交流する。 【全体】 ④朴さんがどんなことに苦しんでいるのかを整理する。 【全体】 ⑤本時の感想を書く。 【個人】	・②では、垣内さんに担当を外すように言われた場面と同様に「韓国人なのに。」と言われた場面とを分けて考えさせることで、発した側の悪意の有無ではなく、「自分たちとは違う。」という感覚が朴さんを苦しめていることに気付かせる。 ・④では、「ありのままの自分で生きられない」ことが朴さんを苦しめていることに気付かせる。 ○ワークシート	①		
8	朴さんに冷たい態度をとる垣内さんの気持ちを考えることを通して、外国人を国籍でひとまとめにして考えてしまう決めつけた見方が自分の中にもあることに気付き、一人一人の人間として対等に接していきたいという思いを深めることができる。 (自己啓発力)	①前時に考えた朴さんの気持ちをパワーポイントで振り返る。 【全体】 <u>課題：朴さんに冷たい態度をとる垣内さんの気持ちを考えよう</u> ②朴さんに冷たい態度をとる垣内さんの気持ちを考える。 【全体】 ③垣内さんがなぜ「朝鮮人」に対して態度を変えるのかを考える。 【個人】⇒【全体】 ★葛藤を生み出す発問 「もし自分が垣内さんだったら、朴さんにどのように接するだろうか。」 ◎語らいを生み出す手立て 「できる」、「できない」、「迷う」の3つの立場で考えさせる。 ④朴さんのような人が安心して暮らせるようにするために、自分はどうしていきたいかを交流する。 【全体】 ⑤本時の感想を書く。 【個人】	・③では、娘が韓国人と結婚してしまったことが理由として挙げられる。そこで、「なぜ韓国人と結婚することに反対したのだろう。」や、「娘の結婚と朴さんに対する態度は関係ないのではないか。」などと問い返し、朴さん自身の人間性でなく、「外国人はこうだ。」という偏見をもっていた垣内さんの弱さに気付かせる。 ★葛藤を生み出す発問によって、「あるべき自分」と「弱さをもった自分」との間に生まれる葛藤を意図的に生み出す。 ◎行動には表さずとも、心の中に差別的な意識がないかを問うことで、自分の心の弱さと向き合って語らいにつなげる。 ○ワークシート、タブレット端末、ロイロノート	③	①	
9	垣内さんの心の変容を考えることを通して、相手を理解しようとする気持ちをもつことで心の弱さを乗り越えられることに気付き、外国人を一人の人間として尊重していこうとする気持ちを深めることができる。 (自己啓発力)	①前時の振り返りから、垣内さんの朴さんに対する思いについて交流する。 【全体】 <u>課題：垣内さんが朴さんをお願いをする場面の気持ちについて考えよう</u> ②垣内さんが朴さんをお願いをする場面の気持ちを考え、ワークシートに記入する。 【個人】 ③書いたことを交流する。 【全体】 ④垣内さんの気持ちが変った理由を考え、ワークシートに記入する。 【個人】 ⑤仲間と話し合い、垣内さんの気持ちを交えたものについてまとめ、交流する。 【グループ】⇒【全体】 ⑥本時の感想を書く。 【個人】	・生徒の実態に応じて、映像資料をもう一度見る(40分45秒から。垣内さんがナースコールをお願いをする場面)。 ・垣内さんの気持ちを考えるきっかけが様々な人との関わりであったことに気付かせ、差別や偏見を乗り越えるためには相手を知ろうとすることが大切だという考えを深めさせる。 ○ワークシート、ホワイトボード		③	

10	日本における外国人への差別に対して、自分に何ができるのか考えることができる。(自己啓発力)	①これまでの学習を振り返る。【全体】 課題：日本社会における外国人への差別に対して、自分は何ができるか考えよう ②身近な差別の問題に対して、自分にできることはないか考える。【個人】 ③交流する。【グループ】 ④本時の感想を書く。【個人】	・考えが思いつかない生徒に対して、タブレット端末で外国人差別解消に対する取り組みを調べさせる。 ・社会全体の取組だけではなく、自分自身でできることを考えさせる。 ○ワークシート、タブレット端末	③	③
11	一連の学習の振り返りや映像資料の視聴を通して、自分の心の弱さを乗り越えて、よりよい生活をしていくために自分ができることを真剣に考え、自他を大切にすることを育むことができる。(行動力)	①映像資料の残り(43分以降)を最後まで視聴する。【全体】 ②49分から始まる「おいしいドレッシング」の部分をもう一度視聴する。【全体】 課題：これまでの学習を振り返り、自分の思いや考えを書こう ③「おいしいドレッシング」とはどんなことだと思うのか、感想を書く。【個人】 ④発表会に向けた準備をする。【個人】 課題：自分の思いや考えを伝えよう	・「おいしいドレッシング」とは、外国人とともに、それぞれのよさを活かして生きていくために必要なものを聞いている。生徒の実態に応じて、説明を加え、視点を明らかにした感想を書かせる。	③	④
12		①発表会を行う。【グループ】 ②抽出生徒の発表を聞く。【全体】 ③学習のまとめをする。【全体】 ④感想用紙を切り取り、相手に渡す。【グループ】	・発表後には口頭で感想を言うとともに、感想用紙にも感想や意見を書き、授業後に切り取って渡すことができるようにする。 ・心の変容がある生徒を事前に抽出しておき、その思いを全体で共有できるようにする。 ○感想用紙	④	③

9 本時について (8/12)

【ねらい】 朴さんに冷たい態度をとる垣内さんの気持ちを考えることを通して、外国人を国籍でひとまとめにして考えてしまう決めつけた見方が自分の中にもあることに気づき、一人の人間として尊重し、対等に接していききたいという思いを深めることができる。

展開	導入	学習活動 ・予想される生徒の反応	留意点 ★葛藤を生み出す指導 ●語らいを生み出す指導
		①前時に考えた朴さんの気持ちをパワーポイントで振り返る。【全体】 朴さんに冷たい態度をとる垣内さんの気持ちを考えよう	①朴さんが「ありのままの自分で生きられない」と辛さを感じていることを確かめる。
展開		②朴さんに冷たい態度をとる垣内さんの気持ちを考える。【全体】 「朴さんを無視する垣内さんはどんな気持ちだったのだろう。」 ・朝鮮人とは話したくないから。 ・日本人とは違うと思っているから。 ・なぜ娘を奪った朝鮮人の世話にならないといけないのかと思っているから。 ③そんな垣内さんをどう思うかを交流する。【全体】 「垣内さんのこと、どう思う？」 理想 ・国籍で差別するなんてよくない。 ・同じ人間なのだから、対等に接するべき。 ・国籍ではなく、一人の人間としてみるべき。 ④垣内さんがなぜ「朝鮮人」に対して態度を変えるのかを考える。【個人】⇒【全体】 「なぜ『朝鮮人』とは話したくないのだろう。」 ・戦争中の経験から朝鮮人を見下しているから。 ・周りの人も朝鮮人を差別する時代に生きていたので、それが当たり前になっているから。 ・自分の娘が国際結婚し、一度も帰ってこないで、娘をとられたと思っているから。 ⑤自分が垣内さんの立場だったら朴さんにどのように接するかを考え、交流する。【個人】⇒【全体】 「もしあなたが垣内さんだったら、朝鮮人である朴さんに対して、他の看護師さんと同じように接することができるか。」 ・差別するのはいけないことだし、話す言葉も同じで困らないから、同じように接することができる。 ・最初は嫌だと思うけど、優しい朴さんを見ていたら、同じように接することができるようになる。 ・もし私が垣内さんだったら、ずっと見下してきた朝鮮人に対して、同じように接するのは難しいかもしれない。 ・社会全体が朝鮮人を差別していた時代に生きていたら、朝鮮人を差別するのがいけないことだとも思わないだろうし、周りに合わせて差別してしまうかもしれない。 ・朝鮮人に娘をとられたと思っているし、垣内さんほどではないにしても、同じ国の人だという理由でなんとなく嫌な態度をとってしまうかもしれない。	②垣内さんにとって「朴さん」ではなく「朝鮮人」であることが要因だと確かめる。 ③垣内さんの態度を客観的に考えさせることで、理想となる姿や考え方を確認する。 ④ロイロノートに提出させ、生徒の考えを把握する。その後、意図的指名で考えを交流させ、垣内さんの状況を振り返りながら、垣内さんの朝鮮人に対する差別意識を明確にする。 ★葛藤を生み出す指導 ③・④ 朴さんに冷たく接する垣内さんを客観的に評価することで、「理想とする自分」を顕在化させる。また、朝鮮人を見下していたことについて、「垣内さんだけだったのか。」と問い返すことで、第6時の内容を想起させ、朝鮮人に対する差別意識が社会全体で共有されていたことを確認する。これにより、周りの人々も朝鮮人を差別している時代であったことを意識させ、「もし自分が垣内さんだったら」という問いを共感的に考えられるようにする。この二つの手立てにより「理想」と「自分の中にもある弱さ」を明確にし、葛藤を生み出す。 ⑤ロイロノートの提出箱を使い、同じように接することが「できる」、「できない」、「迷う」の3つの立場で考えさせる。 ●語らいを生み出す指導 ⑤ 立場を決めた理由や、垣内さんほどではなくても、全く変わらぬ態度で接することができるのか、態度は変わらずとも気持ちの上で違うことはないかななどを繰り返し問いかけていくことで、自分自身や仲間の考え方をより深く見つめさせ、語らいを生み出す。
		⑥今後どのように行動したいかを書く。【個人】 最初は垣内さんの態度をひどいと思ったし、自分はほかの人と同じように関われると思っていた。でも、みんなの意見を聞いて、相手の国を見下していたり、悪いイメージをもっていたら、同じ国出身の人を見て「ちょっと嫌だな」と思うってしまうこともあるかもしれないと思った。これからは、国籍や名前で判断するのではなく、一人の人として尊重し、どんな国の人とも対等に接することができるようにしたい。 ⑦感想を交流する。【全体】	心の弱さ (補助発問) 「自分が困るか困らないかが大事なのかな。」 弱さ 困らないことが大事→自分勝手な生活意識 「朴さんが優しい人だから、と言ったけど、そうでなければどう思う？」 弱さ やっぱ朝鮮人は、と思う→偏見 「なぜ『朴さん』を『朝鮮人』とひとまとめで考えてしまうのだろう？」 弱さ 相手自身を見ようとしなない→決め付け ⑥自分の考えの変容や、今後どうしていきたいかが分かるように、感想の書き方を指導する。ロイロノートの提出箱を共有し、全員が振り返ることができるようにする。 評価規準【思考・判断・表現】 外国人を国籍でひとまとめにして考えてしまう決めつけた見方が自分の中にもあることに気づき、一人の人間として尊重し、対等に接していききたいという思いを深めている。
終末			

第3学年「生き方」指導案

1 単元名

同和問題と自分

2 指導の立場

部落差別の解消に向けて、1969年に制定された同和对策事業特別措置法等に基づき、生活環境の改善等が進められてきた。しかし、2002年にその役割を終えて失効し、その後、同和对策事業や人権擁護に関する法律が制定されてこなかった。そのような中で、2016年12月16日、部落差別の解消の推進に関する法律が公布・施行された。この法律が出されたのは、情報化が進んだことで、部落差別が新たな状況下にあるという背景がある。実際にインターネット上では、旧同和地区の地名を書き込む悪質な行為が後を絶たない。また、旧同和地区のリストをインターネット上に公開する悪質な行為も発覚している。

また、差別行為がなくとも、忌避意識がないと言える人はどれほどいるだろうか。「同和問題は解決に向かっている。」というのは、「差別が表沙汰にされなくなってきた。」もしくは、「私たちが敏感ではなくなってきた。」と言えるのかもしれない。水平社宣言がなされてから100年以上が経った現在、依然として差別行為がなくならない事実から分かることは、何もしないままこの問題が解決に至ることはないということである。日本固有のこの人権課題について、解決に向けた教育と啓発活動を行い、真に解決に至ったとされるまで、これからも努力し続ける必要があると考える。

そのために、同和問題に対する理解を深めることや、差別に向き合っていない自分自身の心の弱さを見つめ直すことを通して、過去から現在へと部落差別を受けてきた人々に対する偏見や差別意識を解消し、その解決のために人権課題に対する正しい認識と態度を培い、行動力を育成していきたい。

3 生徒の実態

4 研究との関わり

【研究主題】

葛藤と語らい 自他を大切にする生徒の育成

【研究内容②：授業づくり】

・「葛藤」を生み出し、「語らい」により自他を受け止め合い、よりよい自分を模索できる授業

I. 葛藤を生み出す指導について

「同和問題で差別を受ける友人とどう付き合うか。」を考えさせる。まずは、「気になるけど付き合う」という生徒に意見を聞き、心の弱さを押さえる。次に、「気にせず付き合う」と答える生徒に意見を聞き、理想の姿を押さえる。その上で、「親や周りから説得されたらどうするか。」と問い、周りの意見に左右される自分に気付かせて葛藤を生み出したい。

II. 語らいを生み出す指導について

「気にせず付き合う」という生徒には、「間違っているといえるか。」「周りから応援されない悲しさは想像できるか。」「SNSや噂で良くないことを言われるのかもしれないが、どう思うか。」と問い、弱さに負けずに関わる生き方を語らせたい。

「気になるけど付き合う」「付き合わない」という生徒には、理想の姿はもちろん、同和問題が続く理由や、差別されている人の気持ちを考えさせ、弱さを乗り越えていく生き方を語らせたい。

5 人権教育として育てたい三つの力

認識力	自己啓発力	行動力
◎社会の中の同和につながるのある人々への差別や偏見を見抜く力 ◎人権課題について正しく理解する力	◎自分自身が同和問題の解消を実現するための当事者であると自覚し、先入観や偏見を改めようとする力	◎同和につながるのある人々と共に、互いに尊重し合い、対等に関わり、同和問題の解消の実現に向けて、主体的に取り組もうとする力

6 総合的な学習の時間としての単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
同和問題（部落差別）がどのようなものであるかが分かり、これまでに差別に苦しみながらも対峙してきた人たちがいることを知るとともに、今なお差別と立ち向かっている人がいることを理解することができる。	調べ学習や仲間との語らいを通して、自分の中にも同和問題（部落差別）に向き合っていない心の弱さがあることに気付く、同和問題の解消を実現するために自分たちがどのように行動するとよいかを多面的・多角的に考察することができる。	自分の心の弱さを乗り越えながら、同和につながるのある人々と互いに尊重し合い、対等に関わる同和問題の解消の実現に向けて、主体的に取り組もうとしている。

7 総合的な学習の時間としての単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日本における同和問題（部落差別）という人権課題について、差別や偏見があることを理解している。 ②日本における同和への差別や偏見の現状について、タブレット端末を用いながら、目的に応じて情報を適切に収集している。 ③同和問題（部落差別）という人権課題と自分との関わりについて考え続けてきたことによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。	①同和問題（部落差別）と向き合いながら、課題解決への見通しをもっている。 ②同和問題（部落差別）という人権課題の正しい理解に必要な情報を、立場に応じて適切に収集している。 ③差別や偏見を生み出しているのは人間の心の弱さや社会構造であることを、現実と理想の対比から考察している。 ④心の弱さを乗り越えようとしている自分を踏まえて、相手意識や目的意識に応じて、分かりやすく表現している。	①異なる仲間の意見を受け入れながら、自分自身の心の弱さを見つめ直している。 ②過去の経験や自分とは異なる仲間の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③自分の生き方を見つめ直し、同和問題（部落差別）の人権課題の解決に進んで取り組もうとしている。

8 単元指導計画（全9時間）

時	ねらい	学習活動	・指導のポイント ○準備物 ★葛藤を生み出す手立て ◎語らいを生み出す手立て	知 技	思 判 表	主 体
1	今までの差別の歴史を知ることを通して、同和問題（部落差別）の実態や差別に苦しみながらも対峙してきた人たちがいることを知り、単元の学習の見通しをもつことができる。（認識力）	課題：差別の歴史を知ろう ①差別について考える。【全体】 ②同和問題（部落差別）について知る。【全体】 ③差別の歴史を知る。【全体】 ④映像資料「その時 歴史が動いた」を視聴する。【全体】 ⑤感想と自己評価シートを書く。【個人】 ⑥交流する。【全体】	・感想用紙を回収後、机列表などにまとめ、生徒の心の変容をとらえていく。 ・本時は全体指導が中心となる。その中で、①～③では30分程の時間を設け、同和問題（部落差別）、解放令、全国水平社を言葉とともに、その内容を確実に押さえる。 ・④では、第1時で最初の15分20秒までを視聴し、残りは第2時に視聴する。 ○映像資料「その時 歴史が動いた」、ワークシート		①	
2	同和問題（部落差別）を調べることを通して、過去から現在にかけて、どんなことが起きているのか分かる。（認識力）	課題：同和問題（部落差別）について調べよう ①テーマを設定する。【個人】 ②動機を明確化する。【個人】 ③調査する。【個人】 ④調査して感じたことや考えたことを書く。【個人】 ⑤視点に基づいた振り返りと自己評価シートを書く。【個人】 ⑥交流する。【全体】	・3テーマの中から1つを選択させる。 <u>テーマ</u> (同和問題が起きている原因、同和問題の過去の実態、同和問題の現在の実態) <u>視点</u> (正しい情報かどうか確かめたか、被害者や加害者などの立場を変えて調べたか、他教科の授業と関連付けて考えられたか)		②	②
3	同和問題（部落差別）の現状を知ることを通して、今なお差別と立ち向かっている人がいることが分かる。（認識力）	課題：同和問題（部落差別）について考えよう ①前時までを振り返り、今なおこうした差別はあるのかどうか考える。【全体】 ②差別の現状を知る。【全体】 ③映像資料「BaribaraxBURAKU」を視聴し、現在でも差別と立ち向かっている人がいることを確認する。【全体】 ④感想と自己評価シートを書く。【個人】 ⑤交流する。【全体】	①では、同和問題（部落差別）に特化して考える。 ③では、法務省の資料を提示し、その中で今も差別に苦しんでいる人がいることを押さえ、特に結婚問題で切実な思いをしている人たちがいることを説明し、第7時からの内容につなげられるようにする。 ○映像資料「BaribaraxBURAKU」、ワークシート（歴史年表など）		①	
4	同和問題（部落差別）の現状を知ることを通して、今なお差別と立ち向かっている人がいることが分かる。（認識力）	課題：同和問題（部落差別）について考えよう ①映像資料「Abema news/部落差別」を視聴し、現在でも差別と立ち向かっている人がいることを確認する。【全体】 ②感想と自己評価シートを書く。【個人】 ③交流する。【全体】	○映像資料「Abema news/部落差別」、ワークシート		①	
5	映像資料を通して、自分の結婚や同和問題に対して揺れ動く真実の気持ちを理解することができる。（認識力）	課題：資料を通して考えよう ①映像資料「あなたに伝えたいこと」を視聴する。【全体】 ②感想と自己評価シートを書く。【個人】 ③交流する。【全体】	○映像資料「あなたに伝えたいこと」、ワークシート ・①資料映像は、21:51まで視聴する。		①	

6	真央が最後にカミングアウトをするか、しないかを考える活動を通して、正しくないかと思っていでも多数の意見や噂に同調し、偏った見方、決めつけをしてしまう意識が社会の中にあることに気付くことができる。(自己啓発力)	<u>課題：真央は最後にカミングアウトをするか、しないかを考えよう</u> ①前時に視聴した「あなたに伝えたいこと」の登場人物や問題の背景を確認する。【全体】 ②同和地区と関わりがあることを恋人にカミングアウトした場合と、カミングアウトしなかった場合に起こる事象をワークシートに記入し、全体交流する。【個人】⇒【全体】 ③真央は、最後にカミングアウトをするかしないか、その理由をワークシートに記入する。【個人】 ④真央の考えの現在地を黒板に貼ったネームプレートで表し、全体で交流する。【全体】 ⑤真央が悩む原因を明らかにする。【全体】 ⑥感想と自己評価シートを書く。【個人】	・①では、前時を振り返り、主人公の真央が置かれている状況や問題の背景を確認する。また、真央の中にある旧同和地区への差別意識を押さえる。 ・④⑤では、意図的な指名、切り返し発問などから、想像力を膨らませ、真央の気持ちに寄り添いながら不安要素を表出させる。そして、理想と現実の対比につなげる。 ★葛藤を生み出す指導 「真央は最後にカミングアウトをするか、しないか、どちらだろう。」と問う。真央の気持ちを考えることは自分の気持ちを表出させることにもなるため、葛藤が生み出されると考える。 ●語らいを生み出す指導 自分の思いを整理させ、それを基に、意図的な指名により考えを深め、仲間の考えを聞くことで自分の考えと比較し、周囲の仲間と話させることを通して語らいを生み出す。	③	①
7	自分が同和問題に直面したときにどう行動するか考えることを通して、気にしないかと思っていた自分の心の中にも差別や偏見につながる弱さがあることに気付く、これからの生き方を見つめ直すことができる。(自己啓発力)	<u>課題：自分が同和問題に直面したらどうするかを考えよう</u> ①前時の学習について振り返る。【全体】 ②自分の友人が同和地区出身であつたらどうするかを考えワークシートに記入し、全体交流する。【個人】⇒【全体】 ③自分の親や友人などから「その人とは関わるな」と本気で説得されたらどうするかを考える。【全体】 ④改めて課題について考えて、「振り返りシート」を記入する。【個人】 ⑤感想交流する。【全体】	・②では、【気になるけど付き合う】という生徒から「何が気になるのか。」を聞き、それに対して問い返す。その気持ちを違う立場の生徒にも共感させることで、気になってしまう心の弱さが誰にでもあることを押さえる。【気にせず付き合う】という生徒には、「気になるという意見を聞いてどう思ったか。」と問い返すことで生徒の姿容や理想の姿を表出させる。 ★葛藤を生み出す指導 「友人や親から関わるなと言われたらどうするか」と問うことで、周りの意見に同調してしまう弱さがあることに気付かせる。 ●語らいを生み出す指導 同和問題の根強さや恐ろしい現実を伝え、自分の理想の姿、弱い心と向き合わせることで、弱さを乗り越えようとする生き方を語らせる。	③	③
8	これまでの学習の振り返り、偏見にとらわれず、強い意志をもちたいという思いをもつと共に、自他を大切にできる。(自己啓発力)	<u>課題：これまでの学習を振り返り、自分の思いや考えを書こう</u> ①作文用紙に自分の思いを書く。【個人】	・正論を書くためのものではなく、自分を見つめた結果、どんな考えに至ったのかなどを書けるように指導する。 ○作文用紙	③	
9	自分の思いを強くもち、相手を意識して、分かりやすく発表することができる。(行動力)	<u>課題：自分の思いや考えを伝えよう</u> ①発表会を行う。【グループ】 ②抽出生徒の発表を聞く。【全体】 ③学習のまとめをする。【全体】 ④感想用紙を切り取り、相手に渡す。【グループ】	・それぞれの発表の後には、感想用紙に感想や意見を書く。 ・心の変容があつたり、同和問題に対する強い思いをもっていたりする生徒を事前に抽出しておき、その思いを全体で共有できるようにする。 ○感想用紙等	④	③

9 本時について (7/9)

【ねらい】自分が同和問題に直面したときにどう行動するか考えることを通して、気にしないと思っていた自分の心の中にも差別や偏見につながる弱さがあることに気づき、これからの生き方を見つめ直すことができる。

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	留意点
導入	①前時の学習について振り返る。【全体】 ・真央がカミングアウトをするかしないかという選択を迫られるのは、イメージや噂だけで人を判断してしまう人がいるからだと思った。 ・自分は何も知らなくても、親や友人、世間に差別意識があることで、自分の意識も変わっていつてしまうことが分かった。 ・差別をしていないつもりでも、調べたり、周りに聞いたりする行動が、同和地区出身の人にとっては、恐怖になっているのかもしれない。 自分が同和問題に直面したらどうするかを考えよう	★葛藤を生み出す指導 ●語らいを生み出す指導 ①前時の学習の感想を画面に映して全体で交流し、同和問題は「勝手な決め付け」や「世間からの噂や差別意識」で生み出されたり、差別が続いたりしてしまうことを押さえる。
展開	②自分の友人が同和地区出身であつたらどうするかを考える。【個人】⇒【全体】 【気になるけど付き合う】 ・友人だから仲良くしたいが、差別されている事実が気になる。 ・自分に差別意識は無いが、周りからどう思われるかが心配になる。 ・差別する気持ちはなくても、友人が気にしていることにどう声をかけたらよいか分からない。 【気になって態度が変わってしまう】 ・同和地区で差別されてきた事実があるから、自分とは違う気がする。 ・自分が仲良くしたら周りに何か思われるかもしれない。 ・問題になりそうなことには、あまり関わりたくない。 【気にせず付き合う】 ・同和地区出身の人は何も悪いことをしていないから気にせず関わる。出身で差別をするなんておかしい。 ・気になる気持ちは分かるが、それでも差別は間違っているから、気にせず付き合いたい。 ・どこの出身でも関係なく仲良くしたいし、助けたい。 【思考の変容】 ・周りから何か言われるかもしれないという意見を聞いて、付き合わなくなることはないけど、そうになったら嫌だという気持ちで接してしまうかもしれない。 ③自分の友人から「その人とは関わるな」と何度も繰り返し説得されたらどうするかを考える。【全体】 ④「その人とは関わるな」と言う友人に対してどうするかを考える。【全体】 ⑤改めて課題について考え、「振り返りシート」に記入する。【個人】	②3つの選択肢で問い、選択した理由を聞いていく。まずは、【気になるけど付き合う】という生徒から「何が気になるのか。」を聞き、それに対して問い返す。その気持ちを違う立場の生徒にも共感させることで、気になってしまふ心の弱さ(差別につながる意識「自分勝手な決め付け」「偏った考え方」「世間体で左右される」)が誰にでもあることを押さえる。 ・差別をされている何が気になるのか。 ・周りからどんなことを言われる(思われる)と思うのか。 ・あなたが「周り」という立場だったら、何か言うのか。 ・これまで仲良くしていたのに、差別されているという事実があると、なぜ関わるかを迷ってしまうのか。 ・自分と違うとは、何が違うのか。 ・差別されているという事実だけで、なぜ友人と関わらないのか。 次に、【気にせず付き合う】という生徒に「気になるという意見を聞いてどう思ったか。」と問い返すことで生徒の変容や理想の姿を表出させる。 ・出身で差別することの何がおかしいと思うか。 ・「気にせず」とは、どう付き合っていきたいのか。 ・どのように助けたいか。 理想 心の弱さ、理想の姿、どちらにも共感させてから以下の発問をして、特に【気にせず付き合う】という生徒に、自分にも差別や偏見につながる弱い気持ちがあることに気付かせ、葛藤を生み出す。 ★葛藤を生み出す指導 「友人から関わるなと言われたらどうするか。」と問うことで、周りの意見に同調してしまう弱さがあることを気付かせ、葛藤を生み出す。 ●語らいを生み出す指導 同和問題の根深さや、恐ろしい現実を伝え、自分の理想の姿、弱い心と向き合わせることで、弱さを乗り越えようとする生き方を語らせる。 ⑤「振り返りシート」に記入させ、それを踏まえた感想を記入させる。
終末	⑥本時の感想を書く。【個人】 自分は出身や地域で差別することは絶対になんて思っていたし、間違えと言え自信はあったけれど、〇〇さんの「周りからどう思われるかが気になる」という意見を聞いて、すごく迷ってしまった。でも、そういう迷いや決め付けが、差別につながってしまうことが分かったから、周りの意見ではなく、自分が正しいと思う行動ができる人でいたい。	⑥この授業を通しての「思考の変容」や「培いたい3つの力」につながる感想を書けている生徒に発表させる。 評価規準【思考・判断・表現】 気にしないと思っていた自分の心の中にも差別や偏見につながる弱さがあることに気づき、これからの生き方を見つめ直している。